

企業検索
サイト

アールエフ (長野市)

夢と情熱を持った「技術屋」として成長

(株)アールエフは、マイクロ波(無線)技術をコアに研究開発型企業として創業し、現在では産業、医科、歯科の各分野で斬新な発想に基づいた新製品を市場に投入している。

「Noと言わず知恵を絞ろう」

X線CT、デジタルレントゲンがアールエフの売り上げの柱である。このうち、産業用CTと医療用CTは国内市場で、ワイヤレス口腔内カメラは世界市場でトップシェアを有する。

当初はスタッフ2名で創業。資本金・信用力は乏しかったが、ユーザーのリクエストに対しては「Noと言わず知恵を絞ろう」を合言葉に、技術開発に取り組んできた。こうして完成したのが、歯科用ワイヤレス口腔内カメラである。

これを契機に医療業界に参入。業界常識では考えられないとされた価格で製品を市場に投入してきた。「人に優しい」をコンセプトに、低価格、高性能、低被曝化したのがデジタルレントゲンセンサー。以降、メーカー直販の強みを最大限に発揮し、ユーザーからの要望を研究開発に反映させ、新製品を次々と市場に送り込んでいる。

無線技術を活かし世界初の開発を実現

商号の「アールエフ(R・F)」は、「Radio・Frequency(無線・周波数)」の頭文字。急成長のきっかけとなった口腔内カメラには、創業時からのコア技術が活かされている。当時、アメリカ市場では長いケーブル付きの口腔内カメラ

が主流だったが、米国在住の日系歯科医師からのオファーにより口腔内カメラの開発に着手、世界で初めて無線化を実現した。

2001年、国内で脚光を浴びることとなった飲むカプセル内視鏡「NORIKA」の開発にも無線技術が使われており、世界初の無線伝送方式によるバッテリーレスカプセル内視鏡の開発に成功している。

地域未来牽引企業に選定

昨年12月、経済産業省から地域未来牽引企業に選定された。この「地域未来牽引企業」は、地域内外の取引実態や雇用・売上高を勘案し、地域経済への影響力が大きく、成長性が見込まれるとともに、地域経済のバリューチェーンの中心的な担い手(担い手候補)が選定対象となる。

創業してから四半世紀が経過。この間、社員は350名(関連会社含む)に増加し、事業所数も国内を中心に28を数える。純国産にこだわる「技術屋」として、近年は国内での増産体制の構築に注力。昨年3月には、内視鏡事業の拠点となる須坂工場を取得した。

将来的には、長野・日本を世界へ向けた先端医療の供給基地にしたいとの夢を抱く丸山次郎社長。その実現に向け、情熱は熱くなることはあっても、冷めることはない。



アールエフ中央研究所(長野市)

【株式会社アールエフ】

企業コード:330247043 法人番号:8100001000080、
資本金9億110万円、1998年6月設立、長野市中御所岡田町3、代表取締役社長丸山次郎氏、従業員350名(関連会社含む)、2017年3月期の年売上高は約123億600万円。電話026-225-7700。
<http://rfsystemlab.com/>

